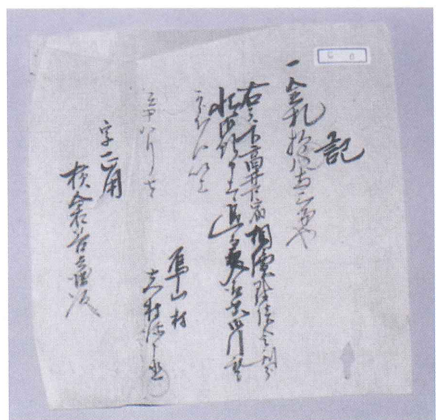
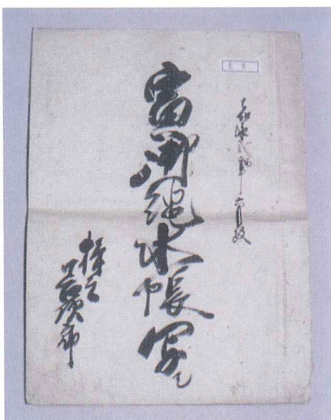


森泰樹氏旧蔵横倉家文書



- 〔指定年月日〕平成十一年一月二七日
- 〔種別〕有形文化財（古文書）
- 〔名称〕森泰樹氏旧蔵横倉家文書
- 〔点数〕三九二点
- 〔所有者等〕杉並区教育委員会
- 〔所在地等〕大宮一―二〇―八（郷土博物館内）

森泰樹氏旧蔵横倉家文書

本文書は旧上高井戸村の横倉家に伝わるものであったが、昭和六〇年（一九八五）に森泰樹氏の所有となり、平成一〇年（一九九八）に森氏より杉並区に寄贈されたものである。

本文書を原蔵した横倉家は、上高井戸村の横倉善兵衛家の二代善兵衛の次男善次郎が嘉永二年（一八四九）に分家して成立した家である。善次郎は、質屋・金融業を始めとして、醤油醸造業、米・塩・煙草・薪・肥料・茶・荒物雑貨などを商い、村のよろず屋を経営し一代で多大な資産を形成した。それ故、横倉家文書は、幕末から明治・大正・昭和初年にわたる商業活動を記録した経営文書がその大半を占めており、杉並地域の近代における多角的な社会経済活動の具体的展開を解明することが可能である。

文書の内容は村政・土地・農業・金融から、明治一四年四月から五年間存在した頼母子講である「親誠講」に関する資料までそのカバリーするところは多岐にわたっており、近代上高井戸の姿を伝えて興味深い。

本文書は、幕末から昭和初年に至る上高井戸の商家の軌跡を伝える文書群で村の暮らし・産業史・商業史等の究明に寄与しうる貴重な資料である。

【文化財所在地】

